

病院ボランティアとして活躍していただいている皆さんにインタビューを行いました!

活動写真	ボランティア氏名	実際にどのような活動をしていますか?	なぜ、当院でボランティアを始めようと思われましたか?	ボランティア活動をして良かったことは何ですか?	これからのボランティア活動をどのようにしていきたいですか?
	鈴木 康予 さん	1階と2階にある4か所の女子トイレにお花を飾っています。	高校3年の夏休み(昭和32年頃)、市民病院受付でアルバイトした時、患者さんの待つ苦しみは今でも心に残っています。また、ふれあい看護体験(平成15年5月12日)に参加し、「看護の心を、みんなの心に」を学んだことがきっかけとなりました。	以前病棟で活動していた時、お話し相手、散歩、食事介助等のたった1時間程の出会いの中でとても喜んでいただきました。特に会話が片言の患者さんから「アリガトウ」と懸命に伝えてくださった時は涙が流れました。	60余年の歳月を振り返り、ここまで培ってくださった多くの方達の「苦心の結晶!」と深く受け止め、責任ある「看護の心」でお手伝いさせていただきたいと思えます。
	杉原 和夫 さん	主に1階正面玄関付近で待機し、外来患者さんの車いす利用のサポートや、初めて来院された患者さんの案内などとしています。	身内が市民病院に入院している時、院内掲示ポスターにて、ボランティア募集を知り、申し込みをしました。65歳を過ぎ、無職、年金生活になったこともきっかけとなりました。	私は今まで大きな入院等の経験がなく、患者さんの気持ちが中々理解できませんでしたが、少し分かるようになりました。病院関係者の方への理解も深まりました。	来院される方々は皆さん困っておられます。少しでも悩みに寄り添えればと思います。
	後藤 早織 さん	毎月第2金曜日(1月と8月は第3金曜日)の14時から30分程、ピアノのミニコンサートを行っています。また、小児科病棟でクリスマス会を行うこともあります。	子供が入院、手術で病院にお世話になった時、24時間働いて下さる病院の方々を見て、頭の下がる想いでした。お世話になった病院職員、入院患者さんや付き添いの方は、病院の外に出られないため、私にできる「ピアノ演奏」で、皆さんの心に少しでも寄り添い、安らぐ時を持っていただければと思います、始めました。	ボランティア活動を通して自分の視野が大きく広がりました。クラシックという世界から、皆様と共に感じる音楽というものに気が付けられました。また、病院の方々、ボランティアの方々が細やかな心遣いを持って活動されておられることを知りました。	季節、時事を取り上げつつ、皆様の心に寄り添い、皆様がほっと安らいでいただけるような時間を一緒に作っていききたいと思えます。
	高田 清二 さん	再来受付機にて受付のお手伝いや、行き先が分からない患者さんに同行し、案内などとしています。	当院にて、ボランティア活動の掲示を見て始めました。	退職後、何もしないでいる自分の健康への不安がありました。ボランティア活動をすることで「早起きする」、「朝食をとる」など健康的な生活ができていると思えます。	健康でボランティア活動を続けたいと思えます。